

### 長谷部誠(ワールドカップゲームキャプテン) 「簡単な道と難しい道への選択を 迫られたとき、 僕はあえて難しい道を選ぶ…」

いくつになっても夢を持ち、挑戦し続けていくこと。それが僕の夢ですね。挑戦の意欲を失ったとき、それはサッカーを引退するとき。

人生も同じじゃないですか。もし人生に挑戦がなくなったら、精神的な死を迎えるような気がする。

じゃあ、何のために生きていくのか。そえは壁を乗り越えたときの快感を得るためです。壁は高いほうが景色がいいでしょう。そのために僕はサッカーをやっているのかもしれない。



目標に向かって走り続ける耐久レース

福高は、「高校選び」は「人生選び」だと捉えています。

人生の重要な岐路にさしかかっている今、この言葉が大きな意味を持っていると思います。

今、この時期には、中学生のみんなには飛びつくことができる入試方法がいくつもあります。しかし、このような時期だからこそ、人生をもっと広い視点から捉えてほしいと思います。みんなは高校卒業後65年以上の人生を生きていくことになります。この65年の間には、楽しいことばかりなく、辛いこと、苦しいことが人を試すがごとく容赦なく襲ってきます。充実した人生を過ごすためには、そのような状況に立ち向かい、自分で打開できる力が求められます。その65年間の生き方を大きく方向づけるのが高校生活です。そのかけがえのない高校を決定する「受検」は、自己を成長させ、伸ばす絶好のチャンスです。高い目標を設定し、安易な入学方法に惑わされることなく自己を鍛える道を選択し、自分さえも気付いていない能力を開花させてほしいと思います。

今の実力を大きく伸ばした状態で2月・3月の人生の節目に立ち向かってほしいと思います。

次のように言われる方がおられました。「早い段階で合格を決めて、その後も頑張り続ける生徒は残念ながら少ないのが現状です。しっかり勉強して、実力を付けながらじっくり決めるから、高校入学後、急激に伸びるものです。高校はゴールではなく、スタートラインに過ぎません。高校をどのレベルからスタートさせるかが大切で、3年後に必ず影響してきます…」

人生は、ある地点(これは、生きている限り全て通過点に過ぎません。)により早く辿り着いた者が制するのではなく、与えられた期間、愚直なまでの努力を継続し、どれだけ多くの成長の軌跡を残したかが握っているのだと思います。

3年後、いよいよ人生が決定的なものになる正念場に、高いレベルを目指そうとすると、そこには近道は1つありません。大学受験の現状を見てみるとレベルが高くなればなる程、入り口に向かう選択肢の数は減り、蓄積した学力と鍛え抜いた思考力が明暗を分けます。3年間、「夢」に向かって怠ることなく努力を続けた者が、最後に栄冠を手にする入試制度が採用されているのです。

今、この時期を踏ん張ろうとする姿勢と、そこで培われた精神力は、ここ数ヶ月間の着実な学力伸長をもたらすだけでなく、3年後、人生を大きく方向付ける大学受験に向かう心構えや取組姿勢に必ず大きな影響を及ぼすものと確信しています。

苦しいことや努力することから逃避するのではなく、自分を信じて自分の能力を発掘させようと努め、自分自身を鍛える道を選んでほしいと思います。

また、志望校を決定する際に、過去に振り回されることなく、現状を正しく捉え、今、自分の力が最も伸びる環境、自分を最も鍛えてくれる指導力を選択してほしいと思います。みんなには、これまでいろんな場面で紹介してきましたが、福知山高校現役生は、国公立大学合格者数において、2年連続で、口丹(亀岡)以北のすべての高校で1位を記録しました。福高は、浪人生をデータに含めたことは一度もありません。みんなの兄弟が、高校生活を過ごしておられた頃と、情勢は大きく変化しました。福高は、現3年生も、12月7日現在、難関の名古屋大学への合格を含め6名が国公立大学へ合格し、3年連続の偉業に向かって好調なスタートを切っています。

福高は、感動的な学校行事、確かな人間的成長を支える文武両道、多様な価値観に触れるボランティア活動等を通じて、充実した高校生活を保障し、バランスのとれた人間育成に努め、みんなの「夢」を応援します。

## メッセージ 24・25

早く決めて楽をしたい自分がどこかにいる…

そのことをブランドとしてすがろうとする自分が見える…

でも、本当に自分を大切にすることはどういうことなのだろうか…

高校はゴールではない。

マラソンの折り返し地点に、1位で到着してもそのことを誇りにするランナーは1人もいない…